

要 旨

特別支援学校の作業学習における成功経験の積み重ねは、知的障害のある生徒の将来の職業生活へつながる大きな自信になると考える。そこで、生徒が自分のもっている力を発揮することを目指し、生徒の強みに着目して支援の工夫を行った。まず、生徒の強みを3つの観点にまとめたアセスメントシートを作成し、これを基に作業学習における教材の決定や支援方法の工夫を探った。次に、3つの観点別に活動の個人目標を設定したチェックシートを用いて評価を行い、活動の達成状況や支援の在り方の確認を行った。その結果、生徒が無理なく精一杯活動に取り組む姿が見られた。

〈キーワード〉 ①知的障害 ②作業学習 ③生徒の強み ④作業学習アセスメントシート
⑤作業学習チェックシート

1 研究の目標

特別支援学校の中学部における作業学習において、知的障害のある生徒が、自分のもっている力を発揮するための支援の在り方を探る。一生徒の強みを基にした、教材・教具の工夫を通してー

2 目標設定の趣旨

平成21年3月に告示された特別支援学校教育要領・学習指導要領の特別支援学校学習指導要領解説総則等編には、「知的障害のある生徒は、成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む姿が育っていない」¹⁾また、「実際的な生活経験が不足しがちであることから、实际的・具体的内容の指導が必要であり、抽象的な内容の指導よりも効果的である。」¹⁾と述べられている。このことから、特別支援学校では教科等を合わせて指導(領域・教科を合わせた指導)を行うことができるとされている。この、領域・教科を合わせた指導の一つである作業学習は、「作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習する」¹⁾ことを目標とし、生徒が学校卒業後、働きながら人と交わる社会生活を送ることができることを目指している。本校においても、「卒業後、働く活動を中心とした社会生活に確実につながるように、小、中、高のそれぞれの年齢や発達段階に応じた職業教育の充実に努める」ことを教育目標の一つに挙げ、一人一人の将来の働く姿を見据えながら、日々、生徒への個に応じた支援を行っている。本校中学部では、校内実習や販売会を取り入れながら作業学習に取り組んでいる。

本研究の対象生徒は、中学部の1年生である。対象生徒は、今年度から作業学習に取り組んでいるが、活動に取り組む喜びや活動を成し遂げた達成感、また、販売会等で購入者から製品への感想を受けての満足感を味わった経験はまだ少ない。家庭での手伝いや役割等における報酬には興味があるが、働くことに関心をもっているとは言い難い。また、将来について漠然とした不安を感じており、働くことに対して消極的な印象をもっている。このようなことから、対象生徒にとって、作業学習での成功経験は、将来の生徒の職業生活や社会自立につながる大きな自信となると考える。そのため、特性に応じた支援が特に重要とされ、作業活動の内容の精選や手立ての工夫は日々の課題となっている。

本研究では、作業学習において、対象生徒が自分のもっている力を発揮するための教材・教具などの作成や支援の工夫を行う。そのために、対象生徒の個別の指導計画等を基に、作業学習に生かすことができる興味や関心、得意な面等、生徒の強みをアセスメントシートにまとめる。対象生徒の強みに着目し、教材・教具の工夫を行うことで、対象生徒が無理なく作業活動に取り組むことができると考える。その結果、自信をもって、意欲的に活動し、成功経験を繰り返し積み重ねていくことで、自分のもって

いる力を発揮できるのではないかと考える。また、対象生徒の特性を踏まえ、具体的な活動目標を設定できる作業学習のチェックシートを作成し、授業実践後、これを用いて活動状況を振り返り、生徒の変容と支援内容の考察を行い、生徒が自分のもっている力を、更に発揮できるような教材・教具の工夫を行っていきたいと考える。

以上のことから、本研究ではグループの研究テーマ、研究課題を受け、知的障害のある生徒が、作業学習において、自分のもっている力を発揮するための支援の在り方を探ることとした。

3 研究方法

- (1) 知的障害、作業学習に関する理論研究
- (2) 対象生徒の実態把握及び教材・教具などの作成
- (3) 作業学習における実践授業及び支援の在り方の検討

4 研究内容

- (1) 研究紀要や文献などを通して、知的障害の特性や、作業学習の意義、実践についての研究を行う。
- (2) 対象生徒の特性について、個別の指導計画を基に、生徒の強みをまとめるアセスメントシートを作成する。それを基に特性に応じた教材・教具などの作成を行う。対象生徒の特性を踏まえて、具体的に活動目標を設定できる作業学習のチェックシートの作成を行う。
- (3) 所属校において実践授業を行い、チェックシートを用いて対象生徒の活動状況を確認し、支援内容を考察し、作業学習における知的障害のある生徒への個に応じた支援の在り方について検討する。

5 研究の実際

- (1) 文献等による理論研究

ア 知的障害のある生徒の支援について

特別支援学校学習指導要領解説総則等編では、「知的障害とは、一般に、認知や言語などにかかわる知的能力や、他人との意志の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについての適応能力が同年齢の児童生徒に求められるほどまでには至っておらず、特別な支援や配慮が必要な状態とされている。また、その状態は、環境的・社会的条件で変わり得る可能性があると言われている。」¹⁾と述べられている。知的障害のある生徒は、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活場面で応用されにくいと、社会生活を送る際に成功経験が少なく、主体的に取り組む意欲が育ちにくいと言われる。そのため、社会生活に役立つ生きた知識や技能としてそれを習得するために、学習指導要領に示された領域・教科の内容を合わせた指導ができるとされている。

小出は、「生活上・学習上の障害や困難性のある子どもの教育では、子ども一人ひとりの社会生活上の不利は、どの子どもも仲間や教師と共に、充実した学校生活ができる状況づくりが行き届けば、解消する。」²⁾と述べている。また、子どもの支援の在り方として、「できる力をつけて、できるようにしようとするよりは、できる状況をつくってできるようにする。」²⁾と述べている。特別支援教育において、障害種にかかわらず、一人一人の特性を肯定的に受け止め、支援を行うことを考える際に、小出の視点は重要と考える。

イ 作業学習について

名古屋は、作業学習は、年間を通じた継続性・恒常性があり、中学・高等部段階で生活の中心として大きく位置付けられる指導の形態であることや作業学習は、適切な支援状況下で、テーマに沿った働く活動に存分に取り組み、どの生徒にも満足感・成就感を分かち合えるよう配慮することが大切であると述べている。また、特別支援学校学習指導要領解説総則等編では、作業学習は、生徒

の実態に応じた段階的な指導を行い、活動に取り組む喜びや完成の成就感が味わえる内容となるよう考慮することが重要であるとしている。

作業学習では、多くの場合、作業班を編成し、学校内で複数の異なる作業活動に取り組む。名古屋は、作業学習において、どの生徒も障害の軽重にかかわらず、仲間と共に働く作業活動に取り組めることが好ましく、多様な活動を展開できることが、総合的な活動である作業学習のよさであるとしている。

この作業学習において、一人一人の特性を生かした支援を行い、生徒が、首尾よく活動を成し遂げることで、自分のもっている力を発揮することができると思う。このことは、学校生活の充実や将来の生徒の職業生活や社会自立につながる大きな自信になると考えられる。

(2) 研究の実際

ア 対象生徒について

本研究の対象生徒は知的障害と自閉症を併せ有している。そのため、知的障害の特性に応じた支援に加え、自閉症のある生徒への効果的な支援とされている、刺激統制、環境調整、視覚化、構造化等の支援を学校生活においても、家庭と連携しながら行っている。

本校中学部の作業学習では、農耕、手工、紙工、木工、家庭の5つのグループに分かれ、生徒の特性に応じた支援を行いながら、活動に取り組んでいる。対象生徒は、主に縫製や布を使っての小物作りなどを行う家庭グループに所属している。見通しがもてる活動には落ち着いて取り組むことができ、中でも、自分の好きな活動や得意な活動には、比較的長時間集中して取り組むことができる。また、口頭での支援や指示よりも、カード等による視覚的な支援や指示のほうを理解しやすく、落ち着いて支援を受け入れることができる。

作業学習においては、対象生徒の個別の指導計画の実態調査を踏まえ、実践授業以前はミシン縫いを担当していた。これまでにミシンを使用した経験があり、ミシンの基本操作が分かり、家庭で雑巾をミシンで縫ってくる等、関心のある活動であった。しかし、学習を進めていく中で、生徒の特性に応じた支援を細かく行っているにもかかわらず、ミシンの不具合や上手に縫えなかった時、また、安全のためのスピードの制限の指示を受けたときなどに混乱し退出する等、作業を続けられなくなる場面が多く見られた。

イ 「作業学習アセスメントシート」(以下「アセスメントシート」)の作成

特別支援学校学習指導要領解説総則等編では、知的障害のある生徒の支援を行う場合は、「児童生徒の興味・関心や得意な面を考慮し、教材・教具等を工夫するとともに、目的が達成しやすいように、段階的な指導を行うなどして、児童生徒の学習活動への意欲が育つよう指導する。」¹⁾と述べられている。本研究においては、興味・関心や得意なこと等を生徒の強みと考え、それを生かしながら活動に取り組むことができるよう支援を行った(図1)。

まず、最初に対象生徒の強みを理解し、作業学習に生かすために、「就労支援のための訓練生用チェックリスト」を参考にアセスメントシートを作成した。「就労支援のための訓練生用チェックリスト」は、教育、訓練、福祉等の機関や事業所が連携して連続した就労支援を円滑に行うために、関係者が共通して使用することができるものとして作成されており、学校教育において活用することは有意義なことであるとする。そこで、アセスメントシートを、「作業態度」「作業技能」「対人関係」の3つの観点に分類し、評価することとした。具体的には、「作業態度」を就労意欲、集中力、計画の実効性、「作業技能」を指示内容の厳守、器用さ、機器・道具の使用、「対人関係」を意思表示、協調性としてまとめ、作業学習における活動内容や支援の方法をアセスメントシート

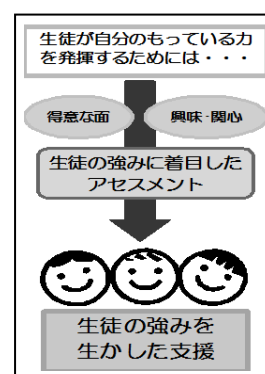


図1 生徒の強みを生かした支援

を用いて立案することとした。

初めに、個別の指導計画やこれまでの作業学習における生徒の活動の様子を参考に、3つの観点別に生徒の強みをまとめた。次に、その強みを生かすための支援や配慮を考え、実際の作業学習のグループや学習場面で生かせるよう、支援をより具体化していった(図2)。このように、3つの観点別に生徒の強みを把握したことで、生徒の目指す姿をよりイメージしやすくなり、目標の設定時に役立った。また、これまでの支援においても、引き続き必要であるものや改善が必要なものが明確になった。これを基に、実際の作業学習における教材の決定、教具の作成や支援方法の工夫を探っていった。対象生徒のアセスメントシートの一部は資料1の通りである。

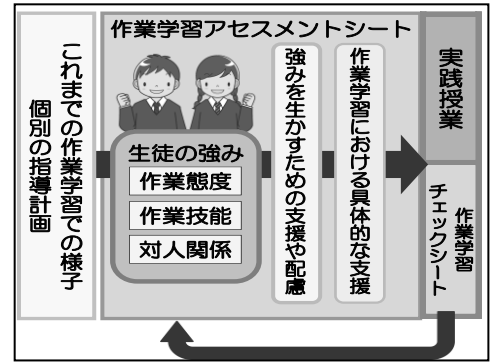


図2 アセスメントの流れ

	生徒の強み	強みを生かすための支援や配慮	作業活動における具体的な支援
作業態度	見通しがもてる活動には落ち着いて取り組める。	・作業活動の手順を準備する。 ・製品の出来上がりまでの工程が分かる教材を設定する。	【明確な手順を示す】 写真を使用した手順書を準備する。 【出来上がりの大きさを視覚的に示す】 出来上がりの大きさの目安を印等で示す。
作業技能	簡単な活動であれば、道具を使った活動でも手順をたどりながら、一人でできる。	・慣れた後でも、確認しやすい手順書を準備する。	【場面に応じて手順を確認できる手順書を設定する】 導入時は、めくり式手順書を使用し、作業に慣れてきたら、リスト式手順書に変更する。
対人関係	カードを渡して依頼や報告やできる。手順に示されている場面では、カードなしでも報告ができる。	・手順に報告する場面を明確に示す。 ・口頭での報告が困難になることが予想されるためコミュニケーションカードを準備する。	【支援が必要と思われる場面におけるコミュニケーションカードの準備】 手順書と一体化し、利用しやすくする。利用し慣れたカードを利用する。

*アセスメントシートは実践授業後により活用しやすい形式アセスメントシート②(資料8)に改良を行った。

資料1 作業学習アセスメントシートの一部

ウ 「作業学習チェックシート」(以下「チェックシート」)の作成

対象生徒の強みや具体的な支援方法をまとめたアセスメントシートを基に、チェックシートの作成を行った(資料2)。チェックシートは、アセスメントシート同様に、「作業態度」「作業技能」「対人関係」の3つの観点に分類し、さらに、具体的な項目ごとに活動の個人目標の設定を行い、これを用いて、支援者が観察を行いながら、目標の達成度の確認や教材や支援が適切であったかの振り返りを行うことができると考える。アセスメントシートと同様に3つの観点別に目標を設定し、評価することで、生徒の強みにどのような支援を行えば、この目標を達成できるかといった流れが分かり、新たな課題もとらえやすくなると考える。また、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄をバランスよくはぐくむことができるのではないかと考える。このことから、支援の見直しや生徒の活動の振り返りができるように、チェックシートの作成を行った。

エ 授業の実際

作成したアセスメントシートを用いて生徒の特性に合った教材の決定や教具、支援具等の作成を行った。まず、「見通しがもてる活動には落ち着いて取り組むことができる」「指先などを使う細かい作業が

作業学習チェックシート (中学部 家庭グループ) 氏名						
作業内容【 さきおりコースター 】						
*評価のめやす 4:一人でできる(支援内容は備考欄に記入) 3:だいたいでできる(言葉かけや指さしがあればできる) 2:部分介助があればできる 1:支援改善点有						
実施日: 月 日 () 記入者: ()						
作業態度	集中力、責任感	評価	4	3	2	1
	作業態度	評価	4	3	2	1
	作業技能	評価	4	3	2	1
対人関係	作業態度	評価	4	3	2	1
	作業技能	評価	4	3	2	1
	対人関係	評価	4	3	2	1

気づき、今後の課題

資料2 作業学習チェックシート

得意である」「繰り返しの作業が得意である」という強みを基に、出来上がりの大きさの見通しをもちやすく、細やかな繰り返しの作業工程がある、さきおりコースター作りを教材に決定した(資料3)。また、「上手にできたことには自信をもって取り組むことができる」といった強みから、縦糸の色を交互に変えて、すくう糸の色を視覚的に示したり、すくう糸の色を同じ色のクリップで示す等、失敗を防ぎ、一人でできるための視覚支援の徹底を行った(資料4)。さらに、「簡単な活動であれば、道具を使った活動でも手順をたどりながら一人でできる」「カードを渡して依頼や報告ができる」といった強みを受け、これまでも活用していた手順書の形式を利用しながら、これまで以上に分かりやすく、写真や目印を使って視覚支援等の工夫を加えていった。

実践授業①は校内実習中に行った。校内実習最終日に行われる校内販売会において、さきおりコースターを販売することを事前に伝え、販売までの見通しをもたせることで、さきおりコースター作りに意欲をもって取り組むことができると考えた。

これまでの授業においては、導入時に混乱が見られることが多かった。そこで、「見通しがもてる活動には落ち着いて取り組むことができる」といった強みを基に、さきおりコースター作りに取り組むことを、事前に数回に分けて細かく伝えたり、活動の計画表を作成し、作業室に掲示したりするなど、活動内容と日程を明確に示した。このことで、実践授業①2/10時の活動の導入では、入室時から笑顔で活動を楽しみにしている様子が見られた。導入で使用しためくり式の手順書もこれまで使い慣れたものと同じ形式の手順書を活用したため、使い方をよく理解しており、活動内容に集中して取り組むことができた。教材については大変興味をもち、教師が手本を示している最中も、「分かった」「そういうことか」とうなずきながら熱心に説明に聞き入る姿が見られた。活動にも意欲的に取り組んでいたが、途中で、コースターの両端を枠の線に合わせるのが難しいようで、教師に、「こうするの?」と何度も確認する様子が見られた。

実践授業3/10時は、前時の生徒の様子を受け、活動開始前に、生徒が作業活動中に困っていると思われる部分や難しいと感じていた部分を、写真等を使って、より詳しく視覚的に示し、修正の仕方等の説明を行った。この時は、「上手に出来たことには自信をもって取り組むことができる」といった強みを基によく出来ている部分を認めながら、示された個所に気を付けることで、もっとよいものができる事を伝えた。このことで、これまでは受け入れが苦手であった活動の修正にも、積極的に取り組もうとする姿がみられた。

実践授業3/10時は、前時の生徒の様子を受け、活動開始前に、生徒が作業活動中に困っていると思われる部分や難しいと感じていた部分を、写真等を使って、より詳しく視覚的に示し、修正の仕方等の説明を行った。この時は、「上手に出来たことには自信をもって取り組むことができる」といった強みを基によく出来ている部分を認めながら、示された個所に気を付けることで、もっとよいものができる事を伝えた。このことで、これまでは受け入れが苦手であった活動の修正にも、積極的に取り組もうとする姿がみられた。

実践授業①のチェックシートにおける活動の個人目標は、これまで、導入時の混乱等が多かったことなど、以前の生徒の作業学習における様子を考慮して、無理のない目標を設定した。しかし、予想された混乱もなく3/10時にはほとんどの目標を達成できていた(資料5)。これは、本教材や支援が生徒



資料3 強みを基にした支援例①



資料4 強みを基にした支援例②

実施日：11月 10日(火)		記入者【 】				
評価項目／個人目標		評価			備考	
作業態度	集中力、責任感 ○指示された時間いっぱい、タイマーが鳴るまで、作業を継続する。	④	3	2	1	・20分間作業を行った。
	質問・報告・連絡 ○布をかえる時、終わりの報告をする時に教師に伝える。	4	③	2	1	・2回目の報告を忘れていたため、指差し指示。
作業技能	指示内容の厳守 ○リスト式の手順書に沿って、作業を行う。	4	③	2	1	・めくり式の手順書使用 ・手順書の内容に沿って活動していたが、手順を見なくなっている。
	器具道具の使用 ○作業器具を指示された決まりを守って使う。	④	3	2	1	
対人関係	意思表示 ○困った時、分らない時等カードを使って、教師に伝える。	④	3	2	1	・「こう?」「ここ?」と口頭で確認していた。
		4	3	2	1	

資料5

実践授業①3/10時チェックシートの一部

に合っていたためであると考えられる。実践授業①の取り組みについては、表1の通りである。

表1 実践授業①の取り組みの実際

単元 10/10	授業の内容	支援方法	生徒の様子
1/10 時	さきおりコースター作り（予告）	・ 校内実習やさきおりコースター作りの日程表視覚的に示し、掲示した。	・ 混乱なく予告を受け入れることができた。
2/10 時 実践授業① 1回目	さきおりコースター作り（導入）	・ さきおりコースターのポスター提示めくり式の順書使用しレッスンとして、教師が手本を示した。 ・ 好きなキャラクターのスタンプを使って活動の振り返りを行った。	・ さきおりコースター作りに大変興味を示し、教師の手本を熱心に聞いていた。 ・ わからない場面ではめくり式の手順書を確認しながら、活動を進めていた。 ・ 楽しみながら、活動の振り返りができた。
3/10 時 実践授業① 2回目	さきおりコースター作り（実践）	・ 修正箇所提示を行い、気をつけて欲しい箇所を写真を使って視覚的に示した。 ・ 言葉かけをなるべく控え、必要な場面のみ修正等の言葉かけを行った。	・ 修正提示を受け入れ、気をつけながら作業に取り組むことができた。 ・ 作業の工程を覚え、ほとんど一人で作業に取り組むことができていた。
4/10 時～ 8/10 時	さきおりコースター作り	・ めくり式の手順書をリスト式に変更。 ・ 生徒が困難と感じている箇所を、写真を用いて示した。	・ リスト式手順書への変更を混乱なく受け入れることができた。 ・ 布選びを楽しんでいる様子が見られる。
10/10 時 実践授業① 3回目	さきおりコースター作り（活動状況の確認）	・ 上手くできている部分を褒める等さきおりコースター作りの活動状況の確認を行った。 ・ コースター販売へ向けての接客や言葉かけの仕方をまとめた表を使用し確認を行った。	・ 入室時より、活動を楽しみにしている様子が見えがえた。 ・ コースターの織り方に慣れてきており、コースターの形が揃う等、上達が見られた。
販売会	・ 意欲的に参加しており、コースターの売れ行きを気にしていた。完売すると嬉しそうな表情を見せた。		

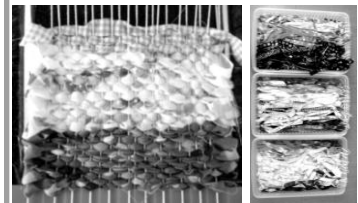
実践授業②は、引き続きさきおりコースター作りの教材を用いて、生徒が色合いを工夫しながら3、4色を組み合わせで1枚のコースターを仕上げることやコースターを指示された色合いで作成するといった新たな課題を取り入れ、3学期最初の作業学習の時間に取り組んだ。

生徒の「色の組み合わせが得意である」「好きな活動には興味をもって意欲的に取り組むことができる」といった強みを生かすことができるように、布の種類や縦糸の色を選択できる場面や選択できる布の色や種類を増やした(資料6)。

実践授業①におけるチェックシートの結果から、生徒の強みを基にした教材や支援が生徒に合っており、目標を達成できていたことが確認できたため、実践授業②においては、作業技能の項目で、「出来上がりの色合いを考え、製品作りに取り組む」という、より高度な目標を設定した(資料7)。

実践授業②2/4時の導入時は、対象生徒が、少しイライラしている様子が見られた。これは、自分がかこれまで慣れていた作り方と少し異なった事や新たな説明を聞くことが負担であったためと考えられる。しかし、「口頭での支援や指示よりも、カード等による視覚的な支援や指示のほうが理解しやすく、落ち着いて支援を受け入れることができる」といった強みを基に、新たな説明を視覚的に簡潔に示し、慣れた形式の手順書を使用しながら言葉掛けを控えて支援を行ったことで、最後まで手順書に従って活動に取り組むことができた。実践授業②3/4時、4/4時では、開始時から落ち着いて作業に取り掛かり、ほとんど一人で作業に取り組むことができた。実践授業①において、楽しみながら活動を行っていた様子とは異なり、より真剣に、一生懸命活動取り組む姿が見られた。実践授業②においては、指定通りの色で4枚のコースターの作成を行う事ができ、チェックシートにおける、「出来上がりの色合いを考え、製品作りに取り組む」といった目標を達成することができた。コースターの色を指示を無理なく受け入れられた事は大きな成長である。

- ・ 色の組み合わせ等が得意である。
- ・ 好きな活動には、興味をもって意欲的に取り組める。



布を選択できる場面の設定

- ・ 実践授業①
布の選択場面1枚に1回
- ・ 実践授業②
布の選択場面1枚に3回

資料6
強みを基にした支援例③

実施日：1月 21日（金）		記入者【 】				
評価項目／個人目標		評価				備考
作業態度	集中力・責任感 ○指示された時間いっぱい、タイマーが鳴るまで、作業を継続する。	④	3	2	1	・25分間活動ができた。
	質問・報告・連絡 ○布をかえる時、終わりの報告をする時に教師に伝える。	④	3	2	1	
作業技能	指示内容の厳守 ○手順書に沿って、作業を行う。	④	3	2	1	・リスト式手順書を使用。
	器用さ ○出来上がりの色合いを考え、製品作りに取り組む。	④	3	2	1	
対人関係	意思表示 ○困った時、分らない時はカードや口頭で、教師に伝える。	④	3	2	1	・困ったり、分からない場面が見られなかった。
		4	3	2	1	

資料7
実践授業②4/4時チェックシートの一部

さらに、これまでの授業では、20 分間継続して行っていたさきおりコースター作りの活動を、4 / 4 時では 25 分間継続して行う事ができた。実践授業②の取り組みは表 2 の通りである。

表 2 実践授業②の取り組みの実際

単元 4 / 4	授業の内容	支援方法	生徒の様子
1 / 4 時	さきおりコースター作り②（予告）	・ さきおりコースター作り②の予告を視覚的に示し、掲示した。	・ 混乱なく、予告を受け入れる事ができた。
2 / 4 時 実践授業① 1 回目	さきおりコースター作り②（導入）	・ さきおりコースターのポスター提示、これまでのコースター作りと違う点を視覚に示した。 ・ 無理のない時間設定を行った。(15 分間) ・ 生徒自身の振り返りシートの項目を教師が評価する生徒の活動目標に近い目標を設定した。	・ 担当との久しぶりの授業で、緊張していたこともあり、指示を受けたことや少しの周囲の刺激にもイライラする様子を見せた。 ・ 活動に関しては、時間いっぱい、手順書に従って行うことができた。 ・ 振り返りの項目を読みながら、自分が自信のある項目を選び、振り返りを行った。
3 / 4 時 実践授業② 2 回目	さきおりコースター作り（実践）	・ 言葉かけをなるべく控え、必要な場面のみ修正等の言葉かけを行った。 ・ 無理のない時間設定を行った。(20 分間)	・ 作業の工程を覚え、ほとんど一人で作業に取り組むことができ、イライラすることなく、落ち着いて活動に取り組めた。
4 / 4 時 実践授業③ 3 回目	さきおりコースター作り（活動状況の確認）	・ 上手くできている部分を褒める等さきおりコースター作りの活動状況の確認を行った。 ・ 言葉かけをなるべく控え、必要な場面のみ修正等の言葉かけを行った。 ・ 無理のない時間設定を行った。(25 分間)	・ コースターの織り方に慣れてきており、布の選びか方等上達が見られた。 ・ コースターの形には少し、不揃いのものが見え始めた。 ・ 25 分間、時間いっぱい活動を行うことができた。

オ 生徒の変容

本教材以前に取り組んでいた活動では、環境にまだ慣れていないことも要因の一つではあると考えられるものの、活動中に混乱したり退出したりすることが多く見られた。しかし、生徒の強みを基にして教材・教具の工夫を行うことで、混乱や退出がなくなり、イライラの回数も大幅に減少し、より落ち着いて活動に取り組むことができた。さらに、初めて経験する生徒自身による活動の振り返りや校内販売会などにも意欲的に取り組む姿が見られた。また、実践授業①では、初めての取り組みであるコースター作りを楽しんでいる様子うかがえたが、販売会経験後の、実践授業②においては、より真剣に作業に取り組みたいといった姿が見られ、熱意が伝わってきた。このことは、25 分間継続して活動を行えたことからもうかがえる。

初めて経験する生徒自身による活動の振り返りでは、さきおりコースター作りで、「布の両端を枠の線に合わせるところを頑張った」「校内販売会までに 12 枚、コースターを仕上げる事ができた」など、精一杯作業に取り組んだことを自分の表現で教師に伝えることができた。さらに、校内販売会では、自分が制作したコースターを「新製品ですよ」等、購入者に呼び掛けながら販売し、完売したことを嬉しそうに教師に伝えるなど、達成感を感じている様子が見られた。

これらのことは、生徒の強みを基にした支援を行ったことで、生徒が負担を感じることなく、活動に取り組むことが可能になったからであると考ええる。

6 研究のまとめと今後の課題

本研究では、知的障害のある生徒が、作業学習において、自分のもっている力を発揮するための支援の在り方を、生徒の強みに着目しながら探ってきた。

実践授業における生徒の変容を見ると、これまで導入時にも混乱が見られることが多かった生徒が、学習に興味をもって無理なく活動に取り組むことができた。また、初めて経験する販売会や対象生徒自身の振り返り等をスムーズに受け入れ、混乱なく安定して活動を行うことができた。これは、生徒の強みを基に教材の決定や支援の工夫を行ったことで生徒が自分の力を十分に発揮できたからであると考ええる。このことから、生徒の強みを基にした教材・教具の工夫は、生徒のもっている力を引き出すためには有効な支援であったといえる。さらに、作業学習において、生徒の強みを基にした支援を継続して行くことで生徒が安心して成功経験を積み重ねることができ、働く喜びや自信をはぐくむことができると考える。

そこで、生徒の強みを基にした、アセスメントシートが、より活用しやすいものとなるよう、本校中学部の職員と意見交換を行いながら改良を行った。改良を行ったアセスメントシート②では、観点の内容をより詳しく記し、チェック欄で生徒の強みを確認できるように工夫を行った。また、生徒の強みを生かせる環境作りに役立てられるよう、「作業環境」の項目を設けた(資料8)。生徒の強みに着目して、アセスメントシートを活用することは、生徒が無理なく取り組める教材選びや支援を行う手立てとなり、作業学習の実態把握時や教材等の見直し時に役立てられると考える。

今後の課題としては、アセスメントシートやチェックシートを活用しながら、作業学習において、生徒がもっている力を発揮するために、強みを基にした支援を継続していくことが重要であると考えられる。そのためには、このアセスメントシートの評価を記録し、次の作業担当者への引き継ぎを確実に行う必要がある。そこで、アセスメントシートを活用した、観点別評価表等の作成を行っていききたい。年度末に作業担当者が作業学習の観点別評価を行い、翌年の作業学習における支援の参考にできる評価表等があれば中学部3年時に行う職場体験や高等部における学習活動にも役立つと考える。

今後も、作業学習における働く活動を通して、生徒が達成感や成就感を感じながら、自分のもっている力を十分に発揮できることを目指し、生徒の将来の豊かな生活の土台となるような授業作りや支援の工夫を行っていききたい。

《引用文献》

- 1) 文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』 平成21年 p.242, pp.244-245, p.248
- 2) 小出 進著 『生活中心教育の理念と方法』 2010年 K&H p.14, pp.17-18

《参考文献》

- ・ 新井 英靖編著 『障害児の職業教育と作業学習』 2009年 黎明書房
- ・ 石塚 謙二編著 『特別支援教育×キャリア教育』 2010年 東洋館出版社
- ・ 名古屋 恒彦著 『特別支援教育「領域教科を合わせた指導」のABC』 2010年 東洋館出版社
- ・ 梅永 雄二編著 『TEACCHプログラムに学ぶ自閉症の人の社会参加』 2010年 学研教育出版
- ・ 上岡 一世編著 『自閉症支援のための基本シリーズ5 子どもに効果的な授業の工夫』 2009年 明治図書

《参考URL》

- ・ 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター研究部門
「就労支援のためのチェックリスト」 <http://www.nivr.jeed.or.jp/>
2011年 3月

作業学習アセスメントシート【※強みが生かせる環境作り ※誰が支援しても同じ結果が得られる支援】					
学年・組	氏名	担任	作業担当者	作業グループ	
年 組				グループ	
チェック項目	内容	生徒の強み		作業活動における具体的な支援	
		◎大きな強み	○強み		
作業態度	①意欲	働くことへの意欲、興味・関心がある。			
	②質問・報告・連絡	必要な時に適切な質問・報告(作業の終了、失敗等)・連絡ができる。			
	③時間の厳守	作業の開始時間を守る。			
	④積極性	作業活動に自分から積極的に取り組む。			
	⑤集中力	作業への集中力がある。			
	⑥責任感	与えられた作業や当番などは最後までやる。			
	⑦整理整頓	作業の準備後片付けができる。			
作業技能	①指示内容の厳守	指示通りに作業できる。			
	②器具・道具の使用	作業機器や道具類を教えられた通りに正しく使える。			
	③正確性	ミスなく正確に作業する。			
	④用途さ	指先を使う細かい作業ができる。			
	⑤作業変化への対応	作業の内容、手順等の変化に対応できる。			
対人関係	①挨拶・返事、出席の確認	あいさつ、返事をする。出席の確認ができる。			
	②情緒の安定	情緒が安定し、落ち着いて作業に取り組む。			
	③協調性	他人と力を合わせて助け合うことができる。			
	④意思表示	自分の意思(休憩、手伝いの依頼)を相手に伝える。			
	⑤休憩時	休憩時間一人で過ごせる。			
スケジュール	有() ・ なし			備考	
作業手順の指示	めくり式 ・ リスト式 ・ モデリング / (文字 ・ 写真 ・ イラスト)				
パーテーション	有(面) ・ なし				
休憩	教室 ・ 個別 / 自立 ・ 要支援				

資料8 作業学習アセスメントシート②